第13回危機対応医薬品等に関する小委員会・ 第28回新型インフルエンザ対策に関する小委員会	資料 2
2026（令和8）年11月18日	

感染症危機対応のための GHIT Fundの実践と学び

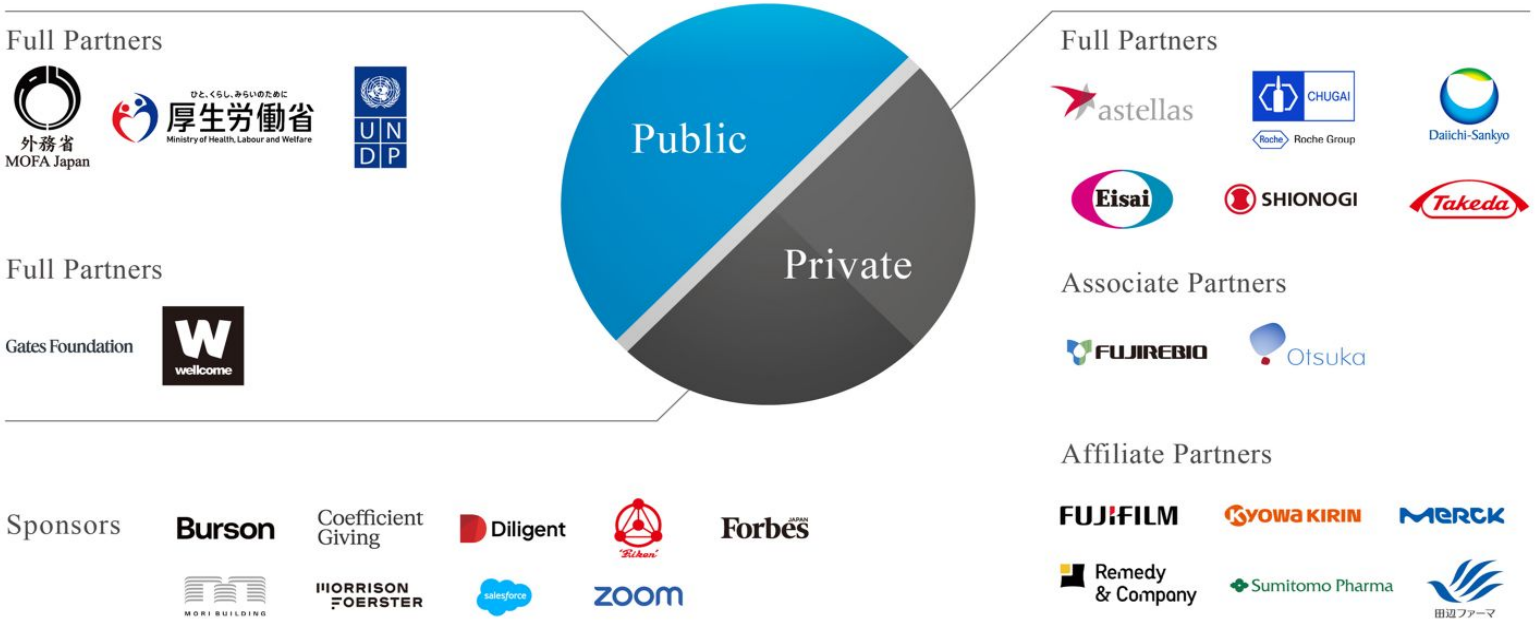
2026年11月18日

公益社団法人　グローバルヘルス技術振興基金
Global Health Innovative Technology (GHIT) Fund
CEO・専務理事　國井修

GHIT Fund
Global Health Innovative Technology Fund

GHIT Fund：官民連携による資金プールと触媒作用

世界で10億人以上が苦しむマラリア・結核・NTDs（顧みられない熱帯病）、新興感染症の治療薬・ワクチン・診断薬の研究開発を促進・支援 ➡ **リスク分散と戦略的連携**



製品開発への投資：投資実績

- 設立から13年間で400億円以上を投資
- 日本と海外の団体が参加する150件以上の研究開発プロジェクトが誕生



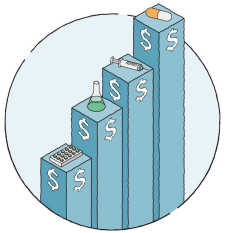
これまでの投資額

400億円以上



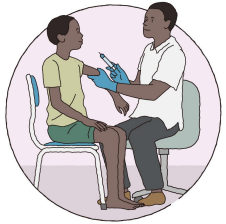
研究プロジェクト数

150件以上



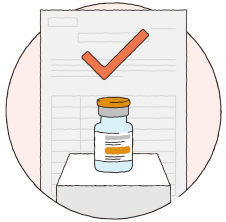
研究開発パートナー

220機関以上



臨床試験（進行中）

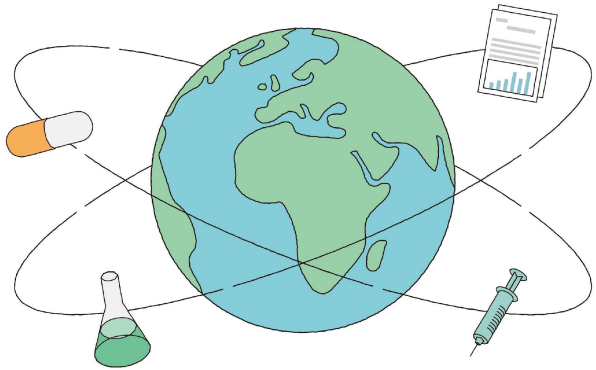
13件



薬事承認

1件

GHIT Fundは、国内外の機関を結び製品開発を加速化
ネットワークのハブとなっています。



日本　70　機関以上

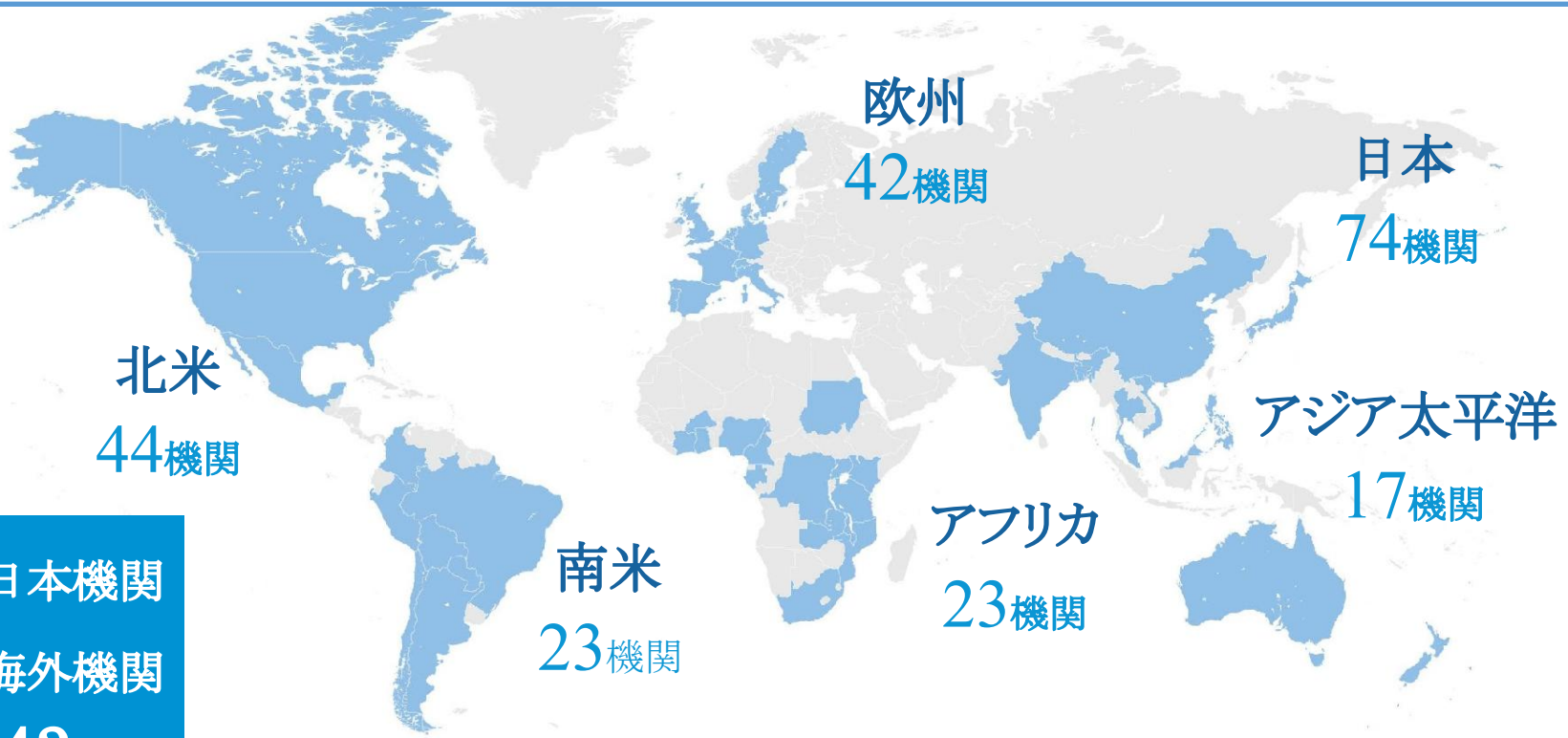
海外 145　機関以上

2026年9月末時点

製品開発に参画した国内外のパートナー

158件に投資

WHO、UNDP、CEPI、UNITAID、Africa CDCなどの国連・国際・地域機関とも連携



74日本機関

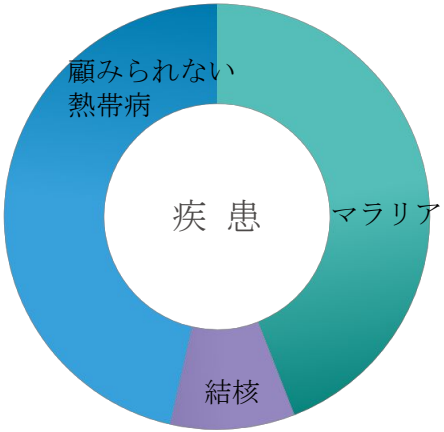
149海外機関

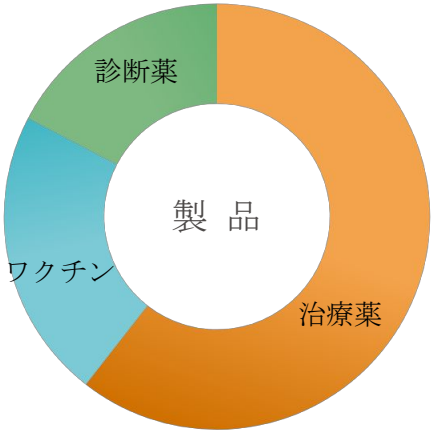
43か国

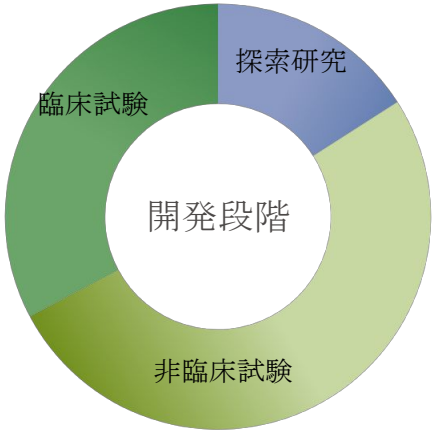
2026年9月現在

■= 臨床試験実施国およびパートナー在籍国

これまでの累積投資額 481億円 数値は2026年9月時点







マラリア	212.0 億円	治療薬	291.2 億円	探索研究	76.7 億円
結核	45.5 億円	ワクチン	106.3 億円	非臨床試験	246.7 億円
顧みられない熱帯病	223.5 億円	診断薬	83.5 億円	臨床試験	157.6 億円

ポートフォリオ 2026年9月時点

治療薬 ワクチン 診断薬

	探索研究			非臨床試験		臨床試験			
治療薬／ワクチン	Target Research	Screening	Hit-to-Lead	Lead Optimization	Preclinical	Phase I	Phase II	Phase III	Registration
診断薬	Target Research			Product Design		Product Development	Product Validation	Product Validation	Registration
顧みられない熱帯病	シャーガス病 デング熱 住血吸虫症 その他	シャーガス病 シャーガス病、リーシュマニア症 その他	シャーガス病 デング熱	シャーガス病 リーシュマニア症	リンパ系フィラリア症、オンコセルカ症 上壌伝播寄生虫症 その他	デング熱 住血吸虫症 リーシュマニア症 上壌伝播寄生虫症	トラコーマ	マイセトーマ	マイセトーマ シャーガス病
マラリア									
結核									

臨床試験～薬事申請等 （2026年3月時現在）

世界中で臨床試験が進行 しています


ホスラプコナゾール / © Parvathmira Diwakar, DNDi



SJ733
マラリア／治療薬
開発段階：第Ⅱb相臨床試験
対象国：ペルー

ALAQ-FDC
マラリア／治療薬
開発段階：第Ⅲ相臨床試験、承認申請
対象国：ルワンダ、ウガンダ、アンゴラ、ナイジェリア、タイ

LmCen-/- vaccine
リーシュマニア症／ワクチン
開発段階：第1相臨床試験
対象国：ブラジル、ケニア

ホスラプコナゾール
マイセトーマ／治療薬
開発段階：第Ⅲ相臨床試験、承認申請準備中
対象国：スーダン、セネガル、ケニア、インド

SchistoAbRDT-*Sm*
住血吸虫症／診断薬
開発段階：製品開発
対象国：ケニア

DENVLP vaccine
デング熱／ワクチン
開発段階：第1相臨床試験
対象国：アメリカ

***Trypanosoma cruzi*-LAMP**
シャーガス病／診断薬
開発段階：承認申請
対象国：アルゼンチン、ウガンダ、モザンビーク

Lung Flute ECO
結核／診断薬
開発段階：製品バリデーション
対象国：南アフリカ、ウガンダ、モザンビーク

TB LAM Ⅱ
結核／診断薬
開発段階：製品バリデーション
対象国：カメルーン、ナイジェリア、ベトナム

GHIT3.0 新興再興感染症領域における取組と成果

取組み骨子

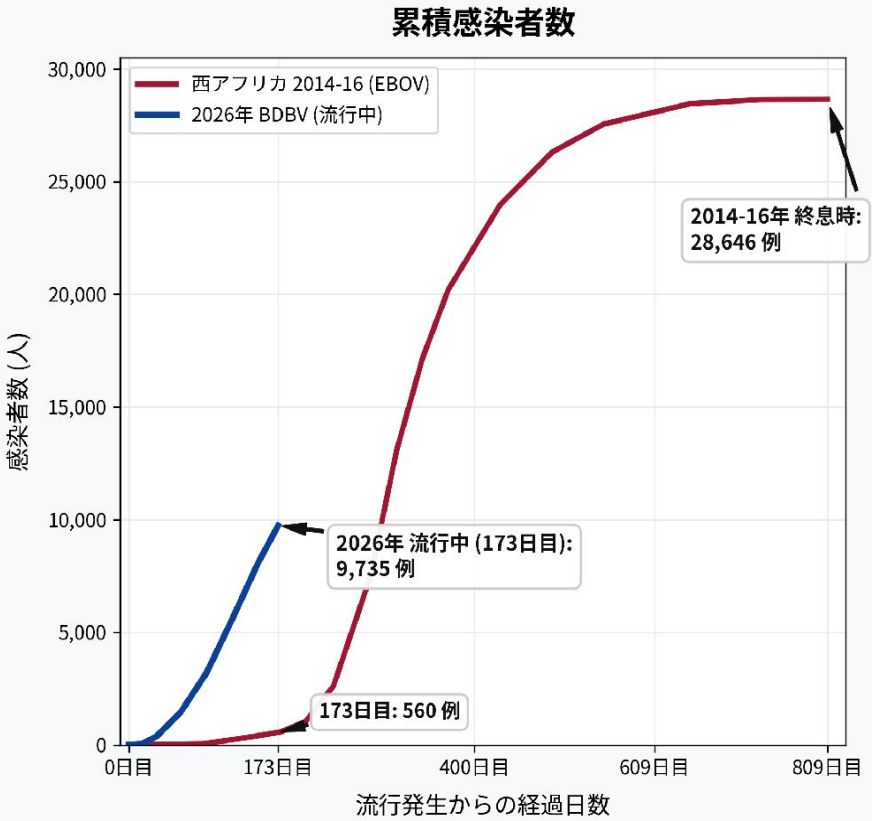
GHIT・日本の比較優位を活かした選択投資と有事の迅速投資のモデル構築

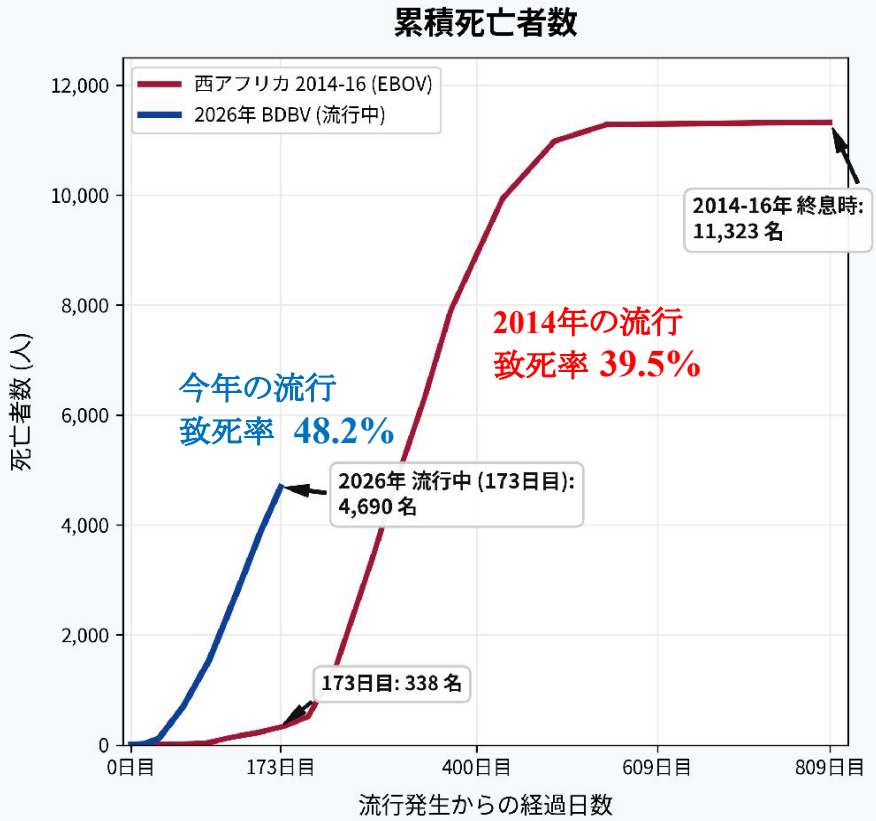
2026年8月現在
投資プロジェクト・投資額　12件 ・ 約5.2億円

Aim	**新興感染症に備え、平時から技術を発掘・育成し、有事に迅速展開できる基盤を構築**
Actions	**① 平時から有事 (Pandemic, Public Health Emergency)の際に活用ができる基盤技術の発掘・育成** • 新興感染症を対象とした**スクリーニング投資** （チクングニア、ラッサ熱、リフトバレー熱、エボラ、マールブルグ、デング、ジカ等） • ウイルスファミリーなど、将来の転用可能性を持つ技術を支援 **② 緊急ニーズへの対応** • 公衆衛生緊急時の迅速資金支援を可能にするRFPの仕組みを導入 • **エムポックス診断技術開発** を支援（2025年） • **エボラウイルス ブンディブギョ株の迅速診断ツール** 開発支援（2026年～）

→Core事業への重点投資を維持しつつ、限られた規模で迅速対応の実績と知見を蓄積

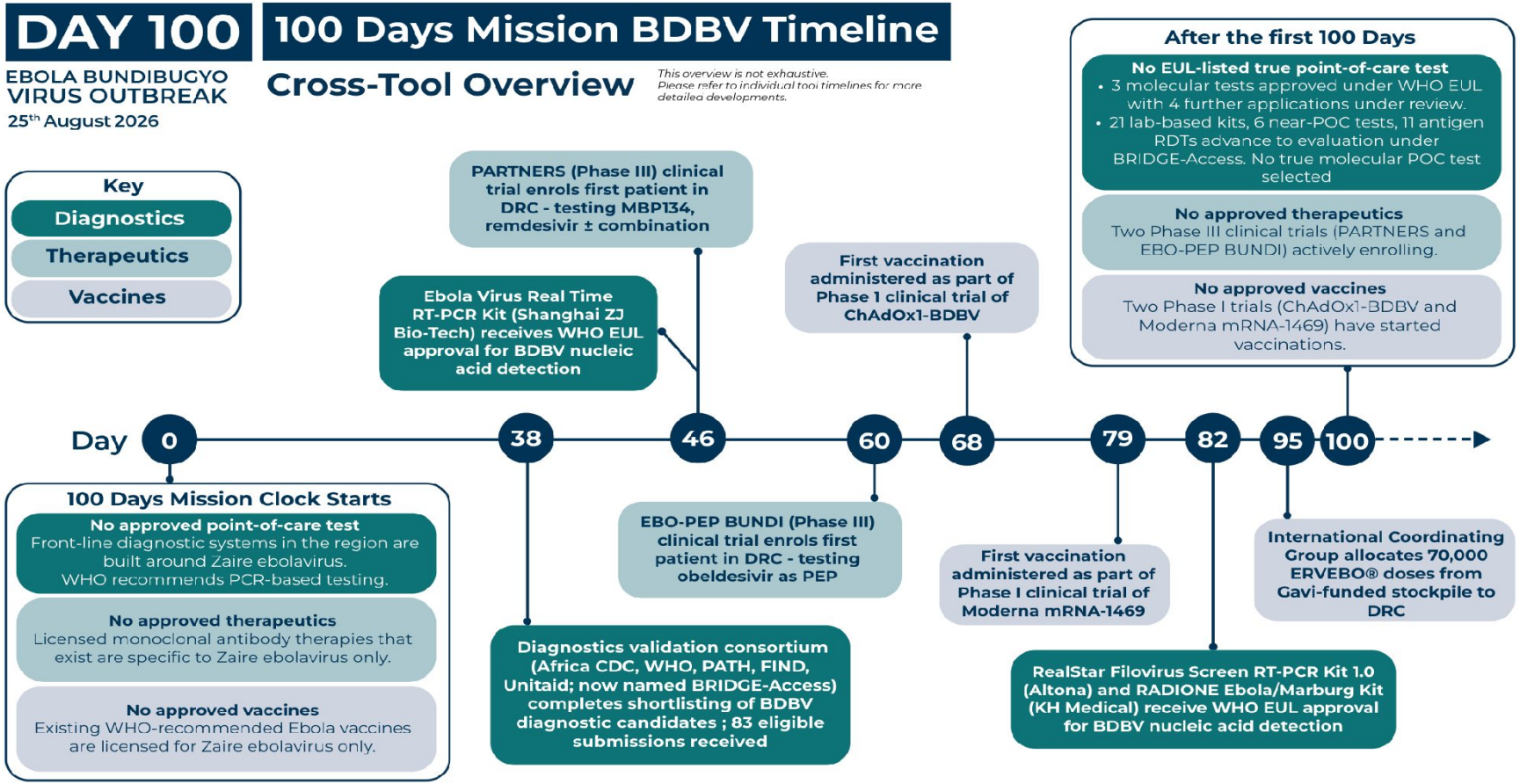
現在アフリカで流行中のエボラ(ブンディブギョ)は　2014年の西アフリカでのエボラ流行の10倍以上の速さで拡大している（有効な検査、治療、ワクチンがない）





出典：WHO. Ebola Situation Reports: West Africa Outbreak (2014–2016), コンゴ民主共和国公衆衛生省 疫学週報（2026年10月時点データ）を基に著者が作図

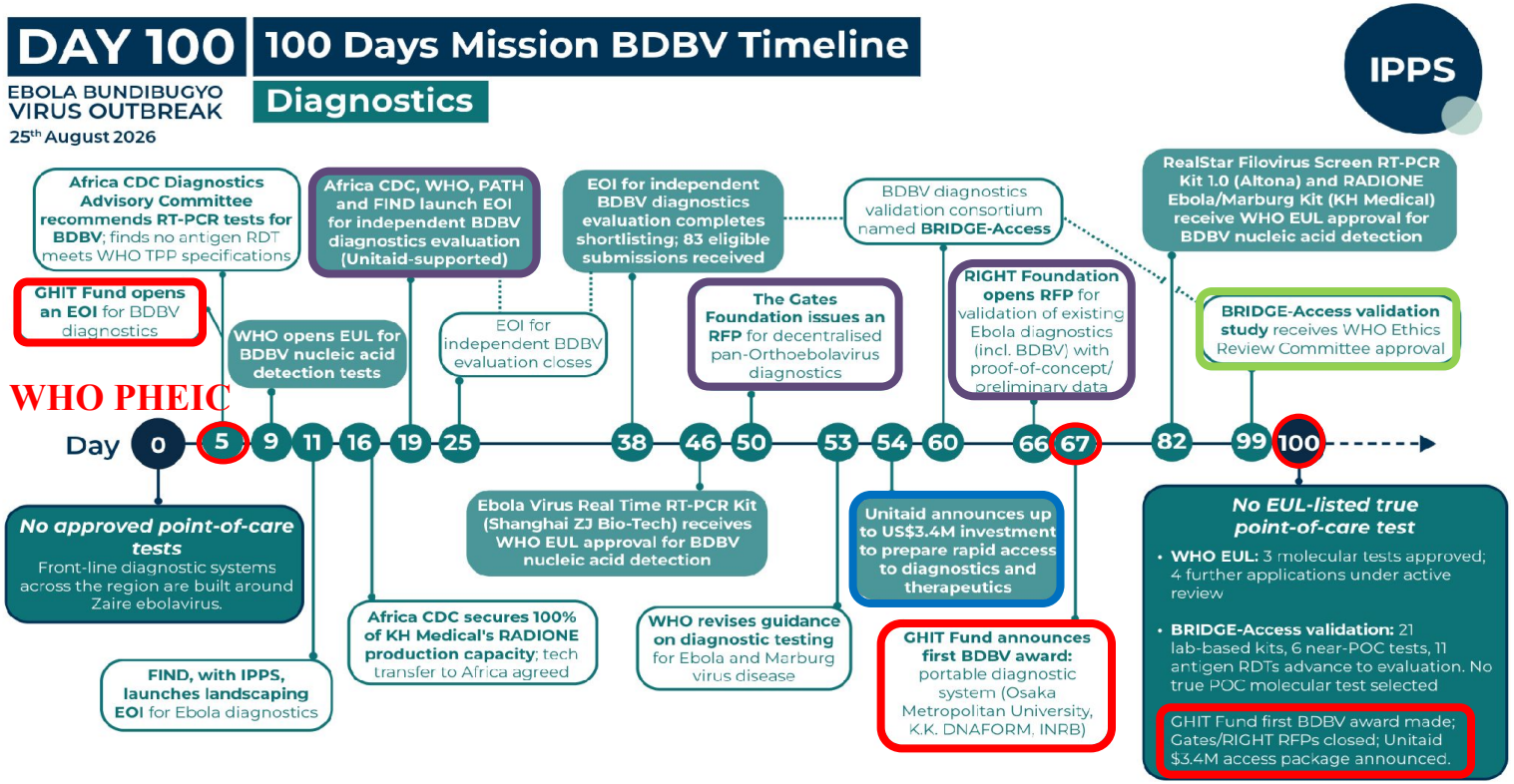
世界ではパンデミック対応のため「 100日ミッション」が稼働している



出典：IPPS；International Pandemic Preparedness Secretariat（国際パンデミック準備事務局）報告書

GHIT Fundは世界最速での迅速診断技術開発に貢献

- WHOのPHEIC宣言から5日で関心表明(Expression of Interest, EOI)の受付を開始
- 67日目に大阪公立大学/DANAFORM/INRBの開発プロジェクトへの投資(助成)を決定



出典：IPPS；International Pandemic Preparedness Secretariat（国際パンデミック準備事務局）報告書

エボラ(BDBV)流行への診断開発に対する国際対応の一例

	Analytical evaluation BDBV	Field evaluation BDBV	Multi-pathogen VHF evaluation	Market access
Objectives	Evaluate rapidly in labs the potential of selected tests	Validate and accelerate adoption of the most performing tests	Evaluate performance on other VHF pathogens to prepare next outbreak	Identify market access barriers and facilitate introduction
Lead by	WHO / Africa CDC			Unitaid
Technical lead	PATH	PATH	PATH / UK Health Security Agency	
Funding	Unitaid (with In-kind contribution)	Unitaid	Unitaid (with In-kind contribution)	Unitaid

（Source: BRIDGE-ACCESS)

GHIT Fundが支援するエボラBDBV迅速診断開発

POCを目指す携帯型検査と、検査室で使用する核酸検査の開発例

プロジェクト（略称）	開発パートナー	診断方法	想定する使用環境・特徴
GenPadによる携帯型 POC検査システムの開発	大阪公立大学 株式会社ダナフォーム コンゴ民主共和国 INRB[1]	核酸検査 SmartAmp等温核酸増幅 ＋蛍光検出	現場でのPOC使用を想定 電池駆動・密閉カートリッジ BDBV特異的検査を優先開発
RT-LAMP／核酸クロマト グラフィー診断デバイス	株式会社医学生物学研究所 （MBL） 長崎大学	核酸検査 RT-LAMP ＋核酸クロマトグラフィー	医療現場・地域診療所を想定 簡便な装置で核酸を増幅し、 結果を目視で判定
BDBV検出用 LAMP法検査薬の開発	栄研化学株式会社	核酸検査 逆転写LAMP（RT-LAMP） ＋蛍光検出	検査室での使用を想定 既存リアルタイムPCR装置 への適合性を評価
BDBVラテラルフロー 免疫測定法の開発・現地調査	埼玉大学	抗原検査 ラテラルフロー免疫測定 （AIE蛍光ナノ粒子）	現場でのPOC使用を想定 15分以内の検出を目標に 携帯型キットを開発

注：各案件は研究開発中。記載した性能・使用環境は開発目標または設計上の想定。承認・実用化済みを示すものではありません。

[1] INRB：国立生物医学研究所　出典：GHIT Fund 各案件ページ／確認日：2026年11月13日

GHIT Fundが世界最速で迅速検査開発に貢献できた理由

GHITのエボラ対応　- 100日ミッションを意識した迅速診断ツール開発への資金動員　-

Day 0
WHOによる緊急事態宣言（PHEIC）

→ **Day 5**
GHIT FundがEOI（関心表明）の受付を開始

→ **Day 67**
プロジェクト採択・資金提供

→ プロトタイプ評価開始

日本の技術力
×
GHITの触媒機能・迅速な資金動員力

1 Global Intelligence



WHO・現地機関から最新情報を把握し、日本へ迅速に共有

重要情報を世界・現地から積極的・水面下で収集・分析

2 Preparedness Enables Speed



平時から応用可能性のある技術を把握・育成

戦略的な準備、迅速化のための仕組み作り

3 Global R&D Ecosystem



200+
国内外パートナー

200+の国内外パートナーとの既存ネットワークを活用

信頼関係、戦略性、マッチング
すぐに活用できる人脈

「情報・ネットワーク・技術」 の**平時からの蓄積** と、緊急時の**迅速かつ柔軟な対応**

イノベーションの5つの主要領域 INNOVATION TYPOLOGY

変革はプロダクト（製品）にとどまらず、End-to-Endのエコシステム全体で考える

01
プロダクト
新製品・サービス

02
プロセス・過程
手続き・生産・工程の迅速化・刷新

03
マーケット・受け手
裨益者・消費者・市場の変容・変革

04
サプライチェーン・ロジスティクス
物流の刷新

05
組織文化・ビジネスモデル
収益構造の再定義

イノベーションは「何を作るか」だけでなく、
「誰に・どう作り・どう届けて 成果を出すか」の全体設計である。

J.A. SCHUMPETER

感染症危機対応で必要なこと

- 平時からの準備 ➡ 本当に迅速に、実践できるのか？

  □ PHEIC宣言の病原体への対応・シミュレーション

- 平時からの準備 ➡ より具体的な戦略と行動計画

  —国内Landscape analysis/ Mapping (どこにどんな技術があり、誰とコンタクトするか？)

  —海外のLandscape analysis/ Mapping (どんな機関・組織とどのように組むと何が可能になるか？)

  —国内外のマッチング（サンプル取得、実地検証・臨床試験、承認、アクセスなど）

  e.g. UNITAID・CHAI・PATH・FIND、Africa CDC、EDCTP3、Pasteurネットワーク、GAVI・グローバルファンド

- 官民連携には具体的な対話と仕組みが必要